

河原崎家歴史資料『日記』（河原崎主水）宝暦九年二月九・十・十二日条 翻刻

九日 ハツ過より七過雨ふり西風、後西南ニ成ル

山上出火 橘本坊方火出テ井関坊・祝坊・内蔵坊・

関伽井坊・杉本坊・新坊・以上七ヶ寺焼亡

自テ社務・諸神人神前ニ参リ、四座玉垣ノ内ニ居ル、

さしこニコぶくめん、差ちいさ刀ニ而のぼる、他姓座中不残壹人ヅ、出勤ス、

石 清 水 ノ神体ヲ若宮ニ還（遷カ）宮ス、東竹預リテ石清水社詰める、他姓神原庸助・

河原崎中書兩人、六位溝口内匠壹人詰める、時ニ火急ニ及故、他姓中書

御戸じやうヲ切ル、東竹御シルシヲ他姓中書・六位内匠トノ淨衣ニ而

包時、検知和泉守来ル、ヨツテ和泉守若宮ニ還（遷カ）ス、御畳中書

差入ル、河原崎主水・小祢宜力弥兩人、玉垣ノ戸等開ク、淨衣ニ包ミ

乍御シルシ置、其方他姓式人者モ本宮ツメ居ル、他姓六位バカリ也、

淀方火消来ル 本宮ノ屋祢ニ仕丁登ル、駕輿丁長来ル、是蔵内人足

豊蔵坊ヲふさぐ ヲ下知シテ御宝輦ヲ神前ニ持来ル、小祢宜御シヤフジ等はずシ

扣居、時ニ初夜ニ至テ社務休足ス、四座・諸神人、当職下知トシテ

壹座方兩人ヅ、勤番ス、中間其方壹兩人ヅ、残り休足、

志水・神原方京都ニ出火由ヲ告、溝口極人・神原市左衛門、

十日晴天

同壹人兩ヅ、勤番、町々役人足相同廿人十人ヅ、ツメ居ル、社務

大風

時々神前ニ廻ル、岩本坊ニ而休足ス、郷中割屋ニ而休足、此夜方町々社士

夜廻リ、

京都方見分

夜半比ニ壹度、ハツ過よりセツ迄ニ壹度兩人ヅ、廻ル、来十五日夜迄廻ル、

来ル山上ニ而ゑ

其方又夜中ニ壹度ヅ、同又社士ノ中方式人ヅ、式時■かわりニ神前

づ相書カエル

南わニ口ノ下ニ勤ス、社務同夜中ニ■東竹等壹時壹人ヅ、廻ル、郷中

出むかい、四座方此夜方鐘ツキノへ屋ニ而休足、同構（楼カ）門下ニ而社

務礼ス、

（中略）

十二日

社務中・東竹・公文所・絵所例座メ出火本社末社中ニ至

無事ノ悦ヲ言渡、神人・社士式度ニ言渡ス、他姓上座ス、

此夜切ニ而町々神前勤番引、夜廻リハ志水方指来有、ヨツテ

十日夜斎藤忠左衛門・溝口紀内、十一日河原崎主水・福田建都其ヨリ

橋本ニ廻ル、夜ノ勤番モ橋本方廻ル、神人社士壹同ニ廻ル、